

## 14 大井神社名物ミレーの鐘

かつて、大井神社には八尺四方の鐘撞堂に宝暦11年(1761) 鑄替の銘が入った鐘がありましたが、第二次世界大戦の時に供出、昭和30年に、これを復した…ということがわかりました。

現在の鐘は、3m 四方の建屋に鎮座していて、龍頭までの総高1m25cm、下部(駒の爪)の径(直径)69cm、これを縦4面に区分し、上部の乳と呼ばれる突起物は、一面当たり24個、合計96個が数えられます。

その下の四面には、上辺34cm、下辺38cm、高25cmの台形状の枠内に、河田王彦宮司の詞、また、重森三玲さんの作る漢詩及び草花をデザインしたかのような模様が鑄出してあります。鐘の内面には、寄附者名と金額が刻まれています。

河田王彦宮司の詞を見ますと、吉備津彦命と共に温羅を討った百田大兄命をこの地の産土神として敬い、正元元年(1259)に社を建て、祀ったということがわかります。また、この鐘を「八韻」と銘ずる所以の漢詩は、旧賀陽町吉川出身で日本庭園の研究・作庭家として著名な重森三玲さん59歳時の苦辛作で、鐘の鳴り響く音韻に漢字の韻をあわせなし、末広がり八韻にまとめてあります。

### 詞

吉備之中州	大井弓矢郷
鐘座産砂神	百田大兄命
共吉備津彦	合力征温羅
衆民甚崇敬	正元元季創
社頭極盛観	近郷之大社
及東亜戦起	舊鯨没銘韻
茲氏子協力	聚賽財百萬
新奉献鳧鐘	寔是誇現世

昭和三十稔四月中五日

宮司河田王彦

氏子並崇敬者奉納

### 銘「八韻」

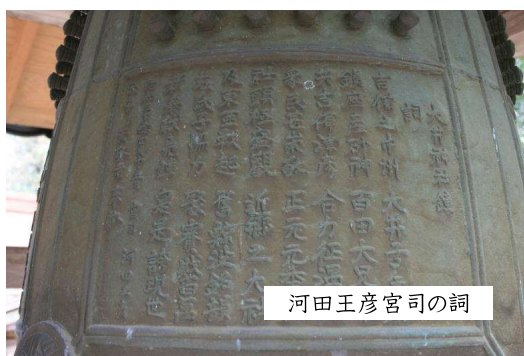
百田豊饒地	千古名神宮
曲川前合流	山谷連西東
早文運開化	近代亦廣隆
蒲牢溶金玉	妙音徹蒼穹
豊農耕之資	勵商智和融
報朝告夕暮	普無所不通
誠百福翔集	大井神帰崇
国土平安全	世界泰平風

詞銘作並書 重森三玲

容形並紋様 藤原義一

音律 青木一郎

鑄作 岩澤徹誠



平成28年2月15日 つるつる会

鐘の内面を見ますと、内外氏子七百五十人により、二十三万円の寄附金が集まった事がわかります。

## 鐘作りに関わった人たち（鐘作り余話）

河田王彦

当、大井神社の宮司、とにかく名前が凄い。

重森三玲

明治29年上房郡吉川村(現吉備中央町吉川)生まれ。

昭和期の日本の作庭家・日本庭園史の研究者。出生名は重森計夫。ミレーにあこがれ、吉川の光林山神護寺で出家、その後還俗して三玲を名乗る。

岩澤徹誠

京都太秦にある「岩澤の梵鐘株式会社」の初代岩澤信男で徹誠は法名。

同社は、これまでに清水寺、知恩院、延暦寺、東寺、永平寺などの各本山へ納めるなど、その数5千余、今では名の知られた梵鐘、仏像、銅像製作会社となっているようです。

青木一郎

京都常寂光寺のホームページに、次のとおり、青木氏と鐘の紹介があります。

… 当寺の鐘楼は、寛永18年(1642)当山第四世、光照院日選上人の建立。梵鐘は第二次世界大戦中徴資に遭い、現在の梵鐘は、昭和48年に青木一郎博士の音響設計により、古律黄鐘調の新鐘として鑄造されたもの。毎日、正午と夕方5時に所定の数を突いています。

つまり、青木一郎氏は、京都大教授、京都工芸繊維大教授で梵鐘の音響学的研究の大家。

藤原義一

昭和時代の建築学者、とりわけ寺社建築や障壁画研究家として著名。

京都市技師、彦根工専教授などをへて、昭和24年京都工芸繊維大教授。

書院造りの歴史研究で知られる。

これらの人々がどのような因縁で大井の鐘作りにかかわったのか。

それはともかく、ミレーの鐘を撞くのは「大井」、見るのはフランスの「オルセー美術館」ということ…。

(大井神社の梵鐘鑄造経緯…吉備郡史)

- ・寛永元甲子 施主 鳥羽太郎左衛門尉久竹
- ・享保四己亥三月廿一日再鑄 本願 岩尾山満願寺現住守最  
施主 当社總氏子中 大工阿宗 林彌五郎尉藤原正次
- ・宝暦十一辛巳三月日 施主 粟井村岡島半平次 鑄工 大阪岸本仁右衛門



鐘の内側に刻まれている寄付者氏名